

3. 5年目の施策の振り返りについて

3-1. 5年目の施策の振り返りについて【旧川復元小委員会】

【茅沼地区旧川復元事業の振り返り結果】

青字：前回小委員会資料で記載、赤字：今回記載

A. 流域全体での評価基準	評価結果(案)
<ul style="list-style-type: none"> ● 良好な環境を有している河川の総延長の増加 ● 河畔林や氾濫原の面積・分布・冠水頻度分布 ● 河川指標種・希少種の個体数・分布面積の安定化、絶滅確率の減少 ● 湿原への土砂・栄養塩の流入量の減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 良好な環境を有している河川延長は、約2.4km増加した。
A. 流域全体での振り返り結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 茅沼地区旧川復元実施計画を策定し、事業を実施中。
B. 手法の実施結果の評価基準	評価結果(案)
<ul style="list-style-type: none"> ● 氾濫面積、冠水頻度、地下水位動態 (目標となるモデルとの比較) ● 水理諸量や底質などの物理環境の復元状況 (目標となるモデルとの比較) ● 河川指標種・希少種の個体数・分布面積の安定化、絶滅確率の減少 ● 移動性通過魚類の分布・採餌環境の量 ● 下流部に位置する湿原への土砂流入の減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旧川復元区間の周辺では、旧川通水後、冠水頻度が増加した。 ・ 魚類の種類相、個体数が多様化し、多様な魚類の生息環境が形成されつつある。 ・ 旧川復元区間周辺では、ミゾソバ・イ・ヨシ等約30haの湿性植生が回復してきている。 ・ H23.9.22の出水における検証結果では、旧川復元区間で氾濫し土砂が捕捉されることによって、湿原中心部への流入する土砂量の軽減を確認した。
B. 手法の実施結果の振り返り結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ モニタリング調査を年月かけて行う必要がある。評価のためのモニタリングや評価基準の精査が必要になる。
総合評価(案)	<ul style="list-style-type: none"> ・ モニタリング調査を継続し、事業実施による効果を検証する。 ・ モニタリング調査では、市民との連携により実施する。 ・ 世界的に希な旧川復元の取り組みを積極的にPRする。 ・ 他の河川についても、事業実施に向けた検討を進め早期に実施計画を策定し釧路湿原の自然再生を推進する。